

令和4年度 県中国研 第2回 代議員会・研究部総会合同会

日時：令和5年 2月24日（金）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 伊藤

1. 会長挨拶（東中 石橋 佳之会長）
2. 令和4年度 中国研活動方向の振り返りと令和5年度の活動の方向の確認
 - ① 令和4年度の振り返りと令和5年度の活動に関して（本荘中 伊藤 雄樹 主務）
 - ② 「美濃大会実行委員会（引き継ぎ）」で話題になったこと（日枝中 熊崎 智文 飛騨大会実行委員）
 - ③ 令和6年度実施 美濃大会に向けての進捗状況（共通理解）（高鷲中 永井 伸幸 美濃大会実行委員長）
 - ④ 研究の方向
全体研究構想・令和5年度の研究部員募集について（不破中 小宅 陽久 研究総括）
話す聞く研究構想（恵那東中 片山 博寿 話す・聞く部長）
書くこと研究構想（東可児中 梅田 佳宏 書くこと部長）
読むこと研究構想（岐阜中央中 北原 章大 読むこと部長）
言語文化研究構想（蘇原中 河合 のぞみ 言語文化部長）
「ぎふこくご賞」の応募・結果に関して（川辺中 細江 隆一 研究副総括）
 - ④ 令和4年度代議員と、令和5年度代議員への引継ぎの展望（白鳥中 上村 光一 総務部長）
 - ⑤ 会計部、広報部、情報部、編集部から
会計収支決算・予算について（東中 山田 優貴 会計部長）
情報部の活動について（北中 和田 光平 情報部長）
機関紙「ぎふこくご」について（西中 佐藤 広恵 広報・編集部長）
3. ご指導
岐阜教育事務所 教育支援課 学校教育係 丹羽宏樹 課長補佐 兼 学校教育係長
4. 副会長挨拶（令和6年度実施 美濃大会実行委員長 永井 伸幸 副会長（美濃））

令和4年度 研究部各部会

日時：令和5年 2月24日（金）16：00～16：30

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長
話す・聞く 片山 博寿
書く 梅田 佳之
読む 北原 章大
言語文化 河合のぞみ

1. 自己紹介
2. 飛騨大会を終え、夏季ゼミで頂いた意見の共有（県中国研領域部長）
3. 令和5年度の研究構想についての検討
4. 令和5年度の研究部員継続のお願い

（終了後、各部会ごとに解散）

**With コロナ時代に
研究を「広め」「深める」ための
さらなる一歩**

**岐阜県中国研
令和4年度の振り返りと
令和5年度活動(案)**

本荘中学校 伊藤 雄樹

飛騨大会を礎に 「一つ上」の県大会とは？

令和3年10月22日。

巷では、緊急事態宣言がやっと解除になり、新型コロナ 第五波の終焉がようやく見えてきたが余談は許さない。

その中で、実施された岐阜県中学校国語科研究会 飛騨大会。(以降略 飛騨大会)

学習指導要領に記されている「予測が困難な時代」は、正に現代を予知しているかのような最中、飛騨地区の先生方のお力添えを頂き、初のオンライン開催による中国研の県大会を実施いたしました。

この飛騨大会を土台とし、2024年度に実施される「美濃大会」。

この美濃大会に向けて、本年度は、大きく2回の準備会を実施しました。

1回目の会は、8月19日に実施しました「中国研 夏季ゼミナール」です。

この会のコンセプトは、「飛騨大会の歩みを知る会 および 2024年度実施 美濃大会における新しい県大会のあり方を考える会」です。

この会では、大きく2つのことを行いました。

- ① 飛騨大会をご覧になることができなかった先生方に、もう一度飛騨地区の発表を見て頂く機会とすること
- ② 実際の発表をご覧頂いた上で、2024年度に実施される美濃大会は、どのような会のもち方をするとよいかのご意見を頂くこと

この会への参加希望を代議員さんを通じてお聞きしたところ、美濃地区の関市・美濃市・郡上郡の先生方をはじめ、羽島市・羽島郡・本巣郡・多治見市の計33校・合計81名の参加希望を頂きました。

ここに、中国研本部役員・県中国研研究部員・分科会発表者の46名を加えた、合計127名で実施いたしました。

参加者の方に次回の県大会にねがうことを伺ったものをまとめたのが次ページです。

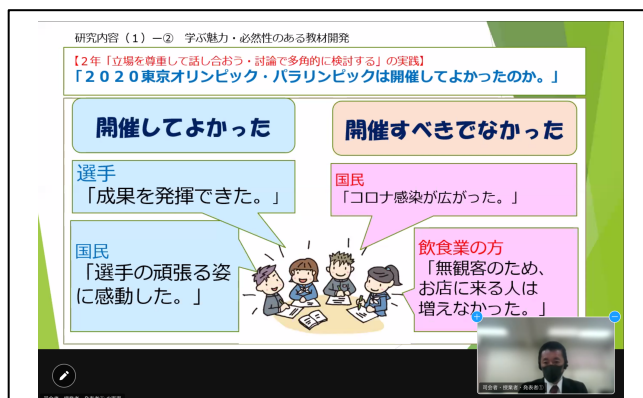


図1：令和3年度実施 飛騨大会の様子



図2：令和3年度実施 飛騨大会の様子



図3：8月19日夏季ゼミナールの様子

アンケートフォームでお寄せいただいた、先生方のご意見（抜粋）

もち方	感想・ご意見
参集型	○授業は現場で見たい。行けないとしても配信などで様子を全て見たい気持ちはある。 ○オンラインによる授業は、本校の全研やいくつかの研究会を通し、非常に厳しいと考えている。それまでの打ち合わせや会議はオンラインでもよいが授業は参観できるようにしたい。 ○限定公開やパスワード付きなど、肖像権や不正利用対策を行った上でのことになるが、やはり提案授業を観られるといいと思う。大会自体はオンライン開催で良いと思うので、事前に授業動画を見たり、後日見られるようにしたりということにすれば、見るも見ないも自由になるかなと思う。
ハイブリッド型	○できれば、実際に参観したいが、遠方の場合オンラインによる参加も選択できるとよい。 ○授業については、「実際に見たい」という意見もあったので、全員でなくとも実際に授業を見られるといいと思う。割り振りは難しいが、実際に見る人、オンラインで見る人というふうに分けるといいのかなと思う。 ○個人的にはオンラインと対面の両方での授業が良いが、無理なら飛騨大会同様にオンライン配信だけで良いのではないかな。
オンライン型	○今回のようにオンライン開催がいいと思う。 ○オンラインで行うとともに、可能ならアーカイブ化して多くの若い先生方にも勉強する機会をもちやすくしたい。現場では、これまで以上に若手教員への負担が大きく、学校を離れることはより難しくなっているため。 ○次回もオンライン開催でよいと思う。内容としては、今回の領域をまたがった評価については今後もどの学校でも研究が進んでいくと思う。今後は ICT を活用した授業は必須だと思う。 ○オンライン開催は参加者としては手軽だが、一番ご尽力下さるのは美濃地区の先生であり、頑張る生徒たちもいると思うので、その方たちのよい方法でやっていけたらいいと思う。 ○コロナの状況的に、大勢による対面が難しい場合は、やはりオンラインだと思います。オンラインの場合、生徒の変容を探るために提案が二つ。 ①単元での変容を見るため、同一生徒の単元前、本時、単元後の振り返りがみたい。 ②本時の少人数交流の動画（音声のみでも良いかと）を一部。 （肖像権など難しい場合もあるが。）美濃大会に向けて宜しくお願いします。 ○授業公開について、授業公開はあると良いが、LIVE 配信は難しいと思う。また、その場で参観するのも、現実的ではないような気もする。あらかじめ授業を行い、撮影したものをオンラインで流すのはどうか。テレビ番組でドキュメントされるような感じで、編集したものを配信してもらえると、とてもよくわかるのではないかなと思う。労力がかかりすぎるので、難しいと思うが、勝手なことを言って申し訳ありません。本日もとても勉強になりました。

8月19日の美濃大会準備会で話題になったこと

	話題になったこと	現段階のとらえ
県大会を行う意義	☐ まず県大会をなぜ行うのかというねらいを見直す必要があるのではないかと（働き方改革や、教員減の側面でも）	☐ 各市町に市教研があるのだから、県大会をきっかけにして、市教研のレベルが上がり、この市教研の実践の積み重ね（授業のビデオを編集したもの等）を発表できるようなものであれば、県大会を地区ごとに行なっていく意義があるのではないかと？市教研の実践の歩みを発表できるようなものにしてはどうか？
会のもち方について	☐ 授業を見たいという希望は多いが、実践発表や研究構想は十分オンラインでも伝えることができる。 ☐ そもそも県大会当日に授業を公開する必要はあるのか？実践発表に授業の一部を入れることで十分でないか？（コロナの関係で学級閉鎖・人数制限・派遣依頼の中止など、変更があればあるほど運営は困難）	☐ 授業を見たいというニーズは確かにある。でも、それが県大会当日でなくても良い。例えば、どんな状況でも、「〇月〇日に授業をする」と決めてしまい、生徒が目の前にいる以上、授業はする。授業を見たい人は、その日に行くという方法はどうか。県大会はその授業実践を含めてまとめたものをオンラインで見せる。そうすることで、県大会当日の会のもち方がコロナによって変動しない。 ☐ 美濃市区の各市町の市教研の情報を公開し、希望者がその授業を見に行くことができる仕組みを作るのも一案である。
研究について	☐ 言語文化部会の語彙に関わる分野はやはり実践するとすると難しさを感じた。指導要領の改訂含めて、一度見直してはどうか？	☐ 河合言語文化部長も、「古典に絞って実践したい」という意向を聞いている。その方向で11月の会ですり合わせをしてはどうか？
県の研究部と美濃の研究部との接続	☐ 県の研究をどのように、美濃地区の先生方にお伝えしていくのか？ ☐ 美濃大会の時に、県の研究部員はどのように関わっていくのか？	◆次ページ参照
美濃大会以後	☐ 教員減や地区による教員の人数の差もある。美濃大会はすでに動き出しているので、その方向でやっていくが、美濃大会以後、地区での持ち回りの形を見直してはどうか？ ☐ 言語文化部会の語彙の部分にも関わるが、全国大会で6つの部会で研究をし、その後現行の4部会となったが、この4つの部会という研究母体を美濃大会以後、見直してもよいかもしれない。	☐ 例えば、美濃大会以後、県の研究部員と研究部長が、何年かに1回、県大会で、研究実践を発表していくような会にしていくのも一案である。 ☐ 美濃大会以後、地区でもちまわりをしている県大会のあり方を検討する。

11月17日の美濃大会準備会で確認した「新しい県大会の方向」

これらの貴重なご意見をもとに、関市立富野中学校において、どのような県大会めざすのかを考える「研中国研 美濃大会準備会」を、11月17日に、ハイブリッド式で実施しました。そこで話題になったのは、前述した夏季ゼミナールで伺った下記のご意見です。

市教研をうまく活用し、
その成果を県大会につなげて頂きたいです。

ここで考えたのは、「今度、市教研やるんだけど、この單元どうするといい？」を聞きやすくなるような仕組みづくりです。

県中国研には、優れた授業実践や経験をおもちの先生が所属して下さっている「研究部」があります。

美濃大会に向けて実践される市教研の指導案検討をその研究部が担うことになれば、岐阜県規模の教科部会になるのではないかと考えました。現段階のイメージは、以下のようです。

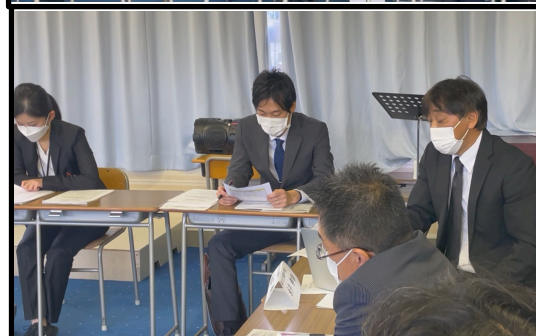


図5：美濃大会準備委員会の様子

【現段階のイメージ】

①授業の原案作成

授業者が勤務校の国語科の先生や、美濃地区の領域部長や美濃地区の研究部員と授業づくりを相談



②相談の希望があれば、授業者が美濃領域部長に連絡

授業者の方から相談希望があれば、連絡



③授業づくり相談

・授業者
・美濃地区領域代表者（美濃地区領域部長）
・県の領域部長
で授業づくりの相談
負担を減らすためにリモートで実施



④希望があれば、県の研究部で指導案検討会を実施

移動負担を減らすためにリモートで実施



⑤市教研の授業

希望があれば、県の領域部長・県の研究部員に派遣依頼を出し、授業や研究会に参加

2024年実施の「美濃大会」に向けての動き

(5月総会で提案済み・赤字部分が、本年度実施したものや、来年度に向けての重点)

①今後の大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	2021	→	2024	→	2027
東濃	間3年	可茂	間2年	鉦(峠)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃

★地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。(研究大会運営に関する規程より)

※現段階では、このような見通しであるが、上記の原則に基づき、2024 実施の美濃大会以後、地区ごとに持ち回りをしているこの県大会の方式の見直しをする。(働き方改革の側面より)

② 今後の動き

(1) 引き継ぎの仕方について (8月19日に実施済み)

コロナ禍においても飛騨大会を初のオンライン開催という形で実施して頂いたノウハウを、確実に次回大会の実行委員に引き継ぎができるように、日枝中学校 熊崎先生には、研究副総括として、次回大会への引き継ぎをお願いしてはどうか？同時に、飛騨大会実行委員長の北陵中 中西史子校長先生にも、引き継ぎの際にサポートをして頂いてはどうか？

(2) 次回(美濃大会)の実行委員長・実行委員について

美濃大会実行委員長 永井 伸幸 副会長(美濃)

美濃大会実行委員 令和5年度に決定

(3) 飛騨大会を美濃大会につなげるために その1 (2月の総会で、実践発表者の方の発表)

(8月19日に実施済み)

今回の2月2日の研究部総会では、飛騨大会の実践発表者に、各部会で、実践発表をして頂く。

飛騨大会当日に都合で見ることができなかった方もいらっしゃることも想定されることと、来年度以降、この追実践を行う際の留意点や、オンラインでこういった県大会を行う際に、どのような発表を目指していくのかのご意見を頂くような研究部総会とする。

(4) 飛騨大会を美濃大会につなげるためにその2 (令和4年度 夏季ゼミにおける実践発表者の方の発表)

(8月19日に実施済み)

上記の2月総会で頂いた意見を元にして、来年度の夏季ゼミをオンラインで実施し、今回の飛騨大会の実践発表者に、今回のプレゼンを、次の美濃大会の引き継ぎをかねて、披露して頂く会とする。

以下は、今後3年間の夏季ゼミの見通しである。

令和4年度 → 飛騨地区大会の発表を見る会

(県研究総括・飛騨大会実行委員・県領域部長・飛騨地区実践発表)

令和5年度 → 美濃大会に向けての準備会(美濃地区での研究の共通理解)

(美濃地区の市教研の指導案検討)

(美濃大会のもち方の検討・決定)

令和6年度 → 美濃大会に向けての指導案検討・実践発表検討

※令和4年度は県中国研が主催で、令和5、6年度は、美濃地区が主催とし、美濃大会の準備会を中国研夏季ゼミナールと兼ねる。

県中国研 ホームページの紹介と研究部へのご参加のお願い

中国研 ホームページ（リニューアルと新 URL のお知らせ）

このように、「移動の負担を少なくしたい」「授業を見たい」というニーズに応えることができるよう、令和6年度実施の美濃大会に向けて、さらに「一つ上」の活動を展開すべく動き出しています。

中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の4部会があります。

その部会が中心となって作成して頂いた、授業実践の指導案等を、本年度リニューアルした「中国研ホームページ」(<https://gihukokugo.com>) にアーカイブしております。

「中国研 ホームページ」にて、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。「明日の授業どうしよう?」とお困りの際や、ご指導の際の参考にして頂けますと、これ以上ない幸せです。図3のQRコードより、どうぞお入りください。

また、今後の会議資料も、このホームページ上にアップをし、情報共有・提供を行なって参ります。



図1：中国研ホームページ トップページイメージ



図2：ホームページで閲覧可能な指導案の一例



図3：中国研ホームページ

中国研 研究部員募集のお知らせ

上記のように、貴重な授業実践を提供して頂き、様々な先生方の実践の参考にさせて頂いたり、上記のように、市教研の指導案検討などでお知恵をお借りしたりすることができる先生を「研究部員」として募集をしております。もちろん時代背景もありますので、オンラインでのご参加も可能です。

もし、来年度お力をお借りできれば、下記の図4のQRコードからその旨をお伝えください。来年度五月頃に、研究部総会への派遣依頼をお送りいたします。



図4：研究部員応募フォーム

令和５年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
4月下旬	第1回 中国研役員会	※対面・オンライン開催は未定
5月下旬	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各代会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ※詳細は、次ページの、本年度のものを参照 【研究部各代会の内容】 ①自己紹介 ②令和５年度の研究構想の共有 ③研究部の活動の方向の確認 ※可能であれば、美濃地区市教研の指導案検討 ※タイミングが合わなければ、後日部会ごとに日時を設定し実施（この会で大体の日時設定）	※対面・オンライン開催は未定
各部会で部長が設定・実施	美濃地区市教研（６月期）の指導案検討	※移動の負担を鑑みて、オンラインで部会毎に実施
7月20日前後	第40回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長・主務者・情報部長が出席
統一研究日 8月17日（木） または 8月18日（金） のいずれか	「中国研夏季ゼミナール」（美濃地区主催） 内容 「令和６年度実施 美濃大会準備会」 【全体会】 ①会長あいさつ ②夏季ゼミナール開催の趣旨の説明 ③県中国研研究総括より、基調提案 ④美濃大会実行委員長あいさつ 【分科会（研究部）】 ①県領域部長研究構想の説明 ②研究に関する質疑応答 ③２回の市教研見通しの確認 R５年度10月及び R６年度 ６月の見通し 及び可能な限りの指導案検討 【分科会（運営部）】 ①美濃大会に向けての現在の進捗状況の共有 ②大会のもち方の決定 ・日時 ・場所 ・もち方 (対面・ハイブリッド・オンライン) ・研究授業の有無 ・研究授業の参観の仕方 等	※現段階では対面実施を考えているが、社会状況によって、オンライン開催かどうかを判断する。 ※この夏季ゼミナールは、令和６年度実施の美濃大会の準備会として、中国研本部署員と、美濃地区の国語科の先生方、県の研究部員で実施する。 ※主な内容は、 ① 研究の共通理解 (研究総括及び領域部長の提案) ② 美濃大会実践発表のもととなる２回の市教研（令和５年度10月と令和６年度6月）の見通しの確認及び、可能な限りの指導案検討 ③ 美濃大会の日時・場所・内容の検討と決定
各部会で部長が設定・実施	美濃地区市教研（１０月期）の指導案検討	※移動の負担を鑑みて、オンラインで部会毎に実施
各部会で部長が集約（随時）	指導等の授業資料を主務者にメールで送付 その後、ホームページ委託業者に掲載を依頼	
1月中旬 役員会	第2回役員会 ☆令和５年度の活動の方向の確認 ☆ぎふこくご賞の審査	※対面・オンライン開催は未定
2月	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各代会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ※詳細は、次ページの、本年度のものを参照 【研究部各代会の内容】 ① 来年度の研究部員継続のお願い ②各部会ごとに美濃大会に向けての準備	※対面・オンライン開催は未定

□―活動報告

期 日	会 議 等	会 場	主な内容
7月28日	第1回美濃大会準備委員会	緑ヶ丘中	組織の在り方を検討
8月19日	第2回美濃大会準備委員会（夏季ゼミ）	高鷲中	飛騨大会引継ぎ
9月21日	市教研交流（美濃←郡上1名）	美濃中	
10月～	希望領域調査、調整、決定		部長が調査、調整
11月17日	第3回美濃大会準備委員会	富野中	県中国研領域長と打合せ
11月21日	市教研交流（郡上←美濃2名）	大和中	領域別実践交流

□―組織の現状

（仮）令和6年 県中国研 美濃地区大会 組織のイメージ

美濃地区大会 実行委員長

美濃地区大会 副実行委員長

美濃地区大会 準備委員会

【美濃地区大会実行委員会】

・ 実行委員長

・ 実行副委員長

・ 運営部長

・ 研究部長

・ 各部会長

【運営部 運営部長（ ）】

部員		中
部員		中
部員		中
部員		中
部員		中

【研究部 研究部長（ ）】

【話す・聞く部会】（代表 藤村茂将）

部長		中
授業者		中
部員	米徳 琢人	昭和中
部員	尾藤 阿里紗	美濃中
部員	西元 咲	美濃中
部員	杜下 凌	八幡中
部員	松井 美奈江	八幡中
部員	水野 奈月	八幡中
部員	山本 拡	大和中
部員	藤村 茂将	明宝中

【書くこと部会】（代表 日置さゆり）

部長		中
授業者		中
部員	市原 敬尚	八幡西中
部員	高橋 雅人	白鳥中
部員	上村 光一	白鳥中
部員	日置 さゆり	白鳥中
部員	小笠原 榛花	高鷲中
部員	原 英司	郡南中
部員	野村 美咲	郡上東中

【読むこと部会】（代表 小林由佳）

部長		中
授業者		中
部員	古川 寛之	旭ヶ丘中
部員	後藤 健太郎	旭ヶ丘中
部員	江崎 加世子	旭ヶ丘中
部員	小林 由佳	桜ヶ丘中
部員	脇田 結	桜ヶ丘中
部員	恩田 美晴	桜ヶ丘中
部員	古山 孝明	富野中
部員	永田 靖明	武芸川中
部員	石丸 高綱	武芸川中
部員	辻 宏紀	津保川中

【言語文化部会】（代表 山本絵美）

部長		中
授業者		中
部員	山本 絵美	緑ヶ丘中
部員	木村 麻里	緑ヶ丘中
部員	吉村 楓	緑ヶ丘中
部員	松田 里江子	緑ヶ丘中
部員	小川 友也	緑ヶ丘中
部員	半田 啓之	下有知中
部員	藤吉 彩乃	下有知中
部員	富村 恭子	小金田中
部員	今井 啓文	小金田中
部員	上野 綾子	小金田中
部員	野村 一道	板取川中

今年度の振り返りと令和5年度の方角性

垂井町立不破中学校 小宅陽久

1. はじめに

昨年度10月に実施された「岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨地区大会」は、新しい県大会の在り方を示せた大会となりました。中国研の研究の内容について、改めて成果と課題をまとめると次のようになりました。

- 単元を構想するにあたり、「テーマの設定」が重要な要素となることを飛騨地区の先生方と共有し、話合いのテーマについて工夫をすることができました。さらにテーマを設定する際は、討論後の活動や**単位全体の評価規準**を見据え、十分にテーマを吟味する必要性を学ぶことができました。(話す・聞く)
- 「寝屋子プログラム」という、学校独自の活動を題材に言語活動を設定し、「寝屋親さんに納得してもらい意見文を書く」と、相手・目的を明確にしたことで、生徒に書く必然を生み出すことができました。**単元を通して、継続して相手・目的意識に立ち返りながら**、言語活動に取り組めるよう単元を仕組んだことで、生徒の課題意識を継続させながら、生徒が身に付けた力を活用して言語活動に取り組むことができました。今後は、単元の構成をより一層工夫するとともに、言葉に着目できる場や、それに伴う**評価規準の明確な設定**について考えていきたいです。(書く)
- 研究内容2において、学習形態の工夫を集団活動や個人活動、精査解釈や内容理解など、学習内容のバリエーションと捉えることで、「考えの形成」に至る**生徒の意識を連続させた単元構想**を行うことができました。しかし、形成した考えが広がったり深まったりしたことを、生徒が明確に自覚したり、どのような力が身に付いたかを理解したりすることが曖昧になってしまうという**評価の課題**がありました。(読む)
- 授業者が、事前に着目させたい言葉を軸にして単元や単位時間の授業を構成することによって、生徒も**単元の終末に向けて**構造的に読解していこうとする力をつける一助となりました。ただ、単元の終末における言語活動を明確にしたことで、主体的に単元に取り組む姿につながったものの、**単元で付けた力をどのように評価し、社会生活と結び付けていくか**については、より具体化していくことが重要であると考えています。(言語文化)

キーワードとしては、「単元全体を通して力を付ける」「学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる言語活動や単元の構想・開発」「自己の高まりを実感できる指導・評価の在り方」等が挙げられています。研究内容①、③に関わる内容が多く出てきていることも分かります。このような、成果と課題を踏まえて、授業改善を図っていくための具体的な取組を考えるとともに、今年度も少しずつではありますが、中国研としての歩みを進めてきました。

2. 今年度の具体的な取組

中国研としては、これまでに創り上げてきた研究のつながりを大切にしながら、新しい研究、新しい時代に対応した授業実践の在り方を考えてきました。そのような考え方を踏まえて、今年度重点的に行ってきたことは単元構想表の作成です。新学習指導要領への全面移行(新しい評価の観点)、新しい教科書となり、岐阜県内の中学校に勤務されている国語科の先生方は、「具体的にどう授業し、生徒に『生きてはたらく言語能力を身に付けさせるのか?』『具体的に、『何を』『どのように』評価するのか?』」ということを知りたいと思ってみえると思いました。国立政策教育研究所から、令和元年6月に出されている、「学習評価の在り方ハンドブック」に、概要や方法は書いてあるのですが、「でも、実際に国語の授業はどうすれば…?」ということが岐阜県の先生方の本音であると捉え、「単元構想の具体」「単位時間の指

そこで、令和３年度全面実施の学習指導要領の専門的作業等協力者を務められた広島県立広島中学校の積山昌典教諭の御実践をヒントとしながら、中国研として指導事項に、指導計画と評価計画を組み込んだものを作成し、実践を示していこうと考えました。次に示すのは、実際に今年度、「話すこと・聞くこと部会」で作成した単元構想表です。

私たちは、左のような単元構想表を次のような相手・目的意識をもって作成しました。

授業づくりのきっかけ、ヒントとなるもの
(そのまま活用・ベースとして工夫改善)

【令和5年度 研究の流れ】

- ①令和４年度に作成した単元構想表を使用し、研究部員が実践を行う。
- ②各部会で実践の内容を交流し、追実践についてまとめる。
- ※その際には「評価」に重点を置き、単元の「どのようなタイミング」で「どのように評価するか」を明確にする。
- ③完成したものを年度末に中国研ホームページにアップする。
- ※中国研ホームページにアップするのは令和４年度に作成した単元構想表に関わる追実践をまとめたものとする。別添資料として指導案や学習プリント、板書等をアップしてもよい。

指導と評価の一体化の考え方を踏まえ、指導計画と合わせて、評価計画についても具体的に分かりやすく記載する。

3. 夏季ゼミナールで話題になったこと

○美濃大会の指導案について

現段階では飛騨大会と同じで考えている。授業者の意図、手立てがより分かるものを提案していきたいが、美濃地区の実情、働き方改革の推進を考慮し判断していく。単元構想表については相手、目的が異なるので併用しない。

○言語文化の方向性について

県中国研の研究部としては、美濃大会において古典について授業提案を行っていききたい。これについても、上記と同様に美濃地区の担当者や授業者の思いを踏まえて決定していく。

4. その他

(1) 「令和5年度の研究部員継続のお願い」について

このように中国研としての活動を展開することができたのは、研究部員の先生方のお力添えがあつてのことです。可能であれば、是非来年度も継続して研究部員としてお力をお借りできればと思っております。無理にはお願いできないことも承知しておりますが、是非、研究部へのご協力を賜りたいと考えております。つきましては、3月3日（金）までに、アンケートフォーム（Googleフォーム）にご回答を頂きたいと思っております。また、新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、大変お手数ではございますが下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

担当者 小宅 陽久（おやけ はるひさ）

連絡先 090-5852-3856

メールアドレス fjh40221@tarui-school.ed.jp

【中国研 令和5年度所属部会 希望調査（Google Forms）】（QRコードとWeb上の画面）



2月24日（金）の第2回代議員会・研究部総会合同会議及び研究部各部会のときに、研究総括（小宅）、各領域部長から、左のQRコードを示しながらアナウンスを行い、3月3日（金）までに回答をいただきます。



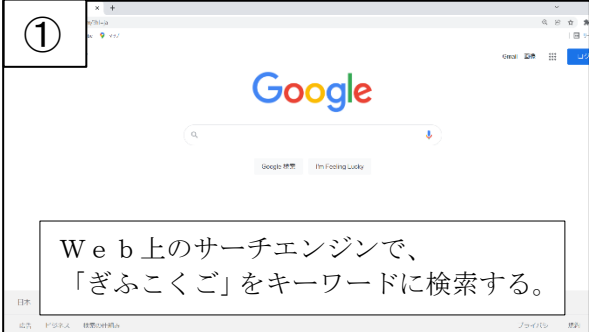
The screenshot shows a Google Form titled "中国研 令和5年度所属部会 希望調査". At the top, there is an illustration of books. Below the title, the email "fjh40221@gmail.com" is listed with a link to "アカウントを切り替える". A red asterisk indicates a required field. The first question is "①現在（令和4年度）所属している部会を教えてください。*", with radio button options: "話すこと・聞くこと部会", "書くこと部会", "読むこと部会", and "言語文化部会". The second question is "②あなたのお名前を教えてください。（例）小宅陽久*", with a text input field labeled "回答を入力".

（２）「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

令和６年度の実大会に向けて、研究部ができることは、「実践例を積み重ねながら指導法を工夫・改善し、深めていくこと」「再現性の高い実践を広めていくこと」ではないかと考えました。そのため、今年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、ホームページにおける情報提供を推進していきます。

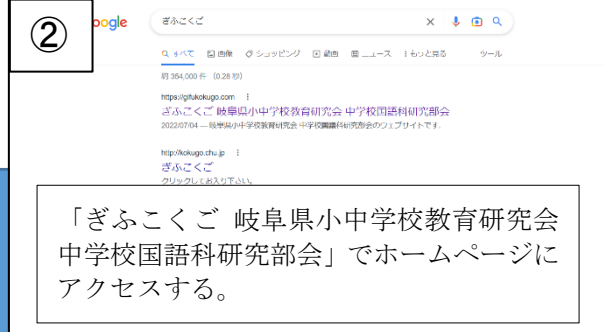
【閲覧の手順】

①



Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索する。

②



「ぎふこくご 岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会」でホームページにアクセスする。

③



岐阜国語
岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

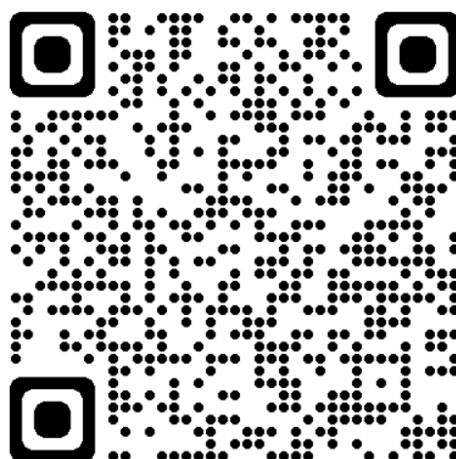
◆最新情報

- 2022.07.04 8/19 中国研夏季ゼミナール資料（飛騨大会の研究構想・指導案など）»
- 2022.06.07 2022年度 NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定 PDF

- ・ホームページのトップページからは、飛騨大会の指導案、県中国研の全体研究構想、各領域の研究構想の閲覧が可能になっています。また、中国研の会議資料についても随時閲覧可能です。
- ・各領域の授業資料がまとまっています。令和３年度国語科実践論文「ぎふこくご賞」入賞者の論文も閲覧することができます。

<今後の掲載予定>

- ・各領域の単元構想表
「話すこと・聞くこと部会」
上石津中学校 片山 博寿 教諭
「書くこと部会」瑞浪南中学校 山崎 雅 教諭
「読むこと部会」星和中学校 渡辺 孝充 教諭
「言語文化部会」蘇原中学校 河合 のぞみ 教諭
- ・令和４年度「ぎふこくご賞」入賞者の論文



【中国研ホームページのQRコード】

令和4年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は65%となっており、全国の平均正答率（64.6%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒は1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きだ」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、19.6%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、30.4%である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査でも、同じような傾向が出ており、近年の岐阜県全体としての生徒の実態は上記のように捉えることができると考えている。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよかった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよかった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) 実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた新単元構想表（仮称）の作成
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力（指導事項）』とは何か」を明確にした上で、指導事項と単元指導計画を組み合わせた指導計画を作成する。
 - ・教員誰しもが見た時に、「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い指導計画を作成する。
- (2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・講義式の学習だけでなく、「生徒相互」「教材との対話」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。（対話の種類の研究）
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。また、ICT（タブレット端末等）についても、国語の授業における効果的な活用法について提案していきたい。（対話の方法の研究）
 - ・作文の授業を例にとると、「〇〇という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、二つのモデル文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような、「発見的な学習をするスタイル」を目指すために、どのような学習過程をとると良いのかを研究する。（課題解決の方途の研究）
- (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にするなど、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった・できるようになった（読み取りにおける考えの広がり、深まり等）」・「前よりよかった（作文、スピーチ等）」という実感をもつことができる場を工夫し、自己の高まりを自覚できるようにした上で、次時への意欲を喚起することで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。
- ・上記のような評価の場を、単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかを研究し、提案する。

令和5年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図（案）

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は**70%**となっており、全国の平均正答率（**69.3%**）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、**57.1%（全国平均61.9%）**、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、**80.1%（全国平均81.2%）**である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよかった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよかった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) 実践の再現性を高めるための、**指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成**
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力（指導事項）』とは何か」を明確にした上で、**指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表を作成する。**
 - ・**岐阜県内の国語科教員が「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い単元構想表を作成する。**
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) **生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**
 - ・講義式の学習だけでなく、「生徒相互」「教材との対話」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。（対話の種類の研究）
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。また、ICT（タブレット端末等）についても、国語の授業における効果的な活用法について提案していく。（対話の方法の研究）
 - ・作文の授業を例にとると、「〇〇という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、二つのモデル文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような学習のスタイルを目指す。また、そのために、どのような学習過程をとるとよいかを研究する。（課題解決の方途の研究）
- (2) **「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）**
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にするなど、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった」「できるようになった（読み取りの学習での考えの広がり、深まり等）」・「前よりよかった（作文、スピーチ等）」という実感をもつことができる場を工夫し、自己の高まりを自覚できるようにした上で、次時への意欲を喚起することで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。
- ・**「指導に生かす評価」「記録に残す評価」が明確に位置付いた評価計画を作成するとともに、評価の場を、単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかについて研究する。（指導と評価の一体化）**

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

A 話すこと・聞くこと部会 令和4年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

1 今年度の研究方向

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和4年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」という思いを抱き、指導事項を効果的に身に付けさせることのできるテーマの設定を工夫することで、生徒は主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた「生きてはたらく言語活動一覧表」の作成
 - ・指導計画の段階で、指導事項をより具体化して、系統性を踏まえながら「この単元でこそ身に付けさせるべき力」を明確にする。
 - ・生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという生徒の具体的な姿を明確にする。
- ②生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力や必然のあるテーマ設定を考える。
 - ・言語活動が必然のあるものであり、今後社会生活でどのように生きるかを生徒と教師とで共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「目指すべき姿」が生徒にとって明確になるような効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
 - ・タブレット端末等を用いた自己評価や、仲間との交流による相互評価の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・生徒の実態に応じて「苦手を克服するための手立て」はもちろん、「得意を伸ばす手立て」も工夫する。

(3) 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。（一人一台端末の効果的な活用）
- ②生徒が、単位時間や単元の最初の頃の自分と比較し、自己の高まりを感じられるような評価の「場」と「方法」を工夫する。

A 話すこと・聞くこと部会 令和5年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和5年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

（１）指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

（２）指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

（３）評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、どのように日常生活や社会生活に生かされるのかを生徒と共有する。

B 「書くこと部会」 令和4年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよかった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感を持ち、実生活に生かそうとする姿

令和4年度 「書くこと」部会 研究主題

相手、目的や意図、場面や状況に応じて、 考えが伝わる文章を書く能力の育成 ～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①指導事項と指導計画とを組み合わせた「生きてはたらく言語能力」の一層の明確化と、「中国研ホームページ」を活用した情報共有による授業の汎用化の推進
 - ・育成したい資質・能力を明確にして、評価基準を達成した生徒の姿を具体的に思い描く。
 - ・実践した資料等を、ホームページで県全域に広げ、どの学校でも実践を活用しやすくする。
- ②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫
 - ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動を工夫する。
 - ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える題材や言語活動を工夫する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
 - ・ICTを効果的に活用したり、ペアや小集団等の学習形態やその編成等を工夫したりする。
 - ・単元や単位時間で働かせたい見方・考え方を明らかにして、論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習過程を位置付ける。
- ②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、個に応じた指導・援助の充実
 - ・予想される生徒の困り感を解消するための、モデル提示や指導・援助の方法を考える。
 - ・自力で評価基準に達すると想定される生徒が、よりよい表現を工夫できるような指導・援助の方法を考える。

(3) 評価の工夫

- ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方
 - ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場を設定する。
 - ・教師にとっても生徒にとっても明確に変容を捉えやすい評価の方法を工夫する。

B

書くこと部会

令和5年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和5年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，

考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

C 読むこと部会 令和4年度の研究の方向

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和4年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和4年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

(1)指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

(2)指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3)評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

C 読むこと部会 令和5年度の研究の方向（案）

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和4年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和4年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

（1）指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

（2）指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

（3）評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身に付けた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

言語文化部会 令和4年度の研究の方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校

河合 のぞみ

1 今年度の研究の方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常生活や社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

《研究内容》

①「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

②「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語句の意味の定着）

- ・ 主体的に言葉の知識を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割、意図に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語彙の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

言語文化部会 令和5年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校

河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・ 語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

《研究内容》

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

① 指導計画の工夫

- (1) 多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・ 「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- (2) 語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・ 言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

② 指導援助の工夫

- (1) 古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・ 作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・ 言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

- (1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・ 形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

令和4年度 代議員の皆様へ

令和4年度県中国研 総務部長
郡上市立白鳥中学校 上村 光一

令和5年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度も残すところあとわずかとなりました。代議員の先生方には、大変お世話になっております。本年度もコロナ禍のため、活動が制限された中ではありますが、美濃大会の準備をはじめ、これからの活動における大きな前進があった一年となりました。本当にありがとうございました。

つきましては、来年度の代議員の確認、及び引き継ぎ方法についてご連絡いたしたいと思います。本来ならば、2月の第2回代議員会において直接ご説明すべきところですが、対面での会の開催ができないため、次のような進め方としたいと思います。

【「アンケートフォーム」を用いた来年度の代議員の確認】

(手順)

①Google フォームにリンクしている、左下の QR コードをスマートフォンで読み込む。

(パソコンならば右下の URL をコピーしてブラウザでペースト)



<https://forms.gle/8x5FaPKDnhCtZ9hAA>

②アンケートフォームにご回答いただく。

* フォームにはメールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご入力ください。(回答後、そのメールアドレスに回答のコピーが届きます。コピーが届いていれば正しく操作できたことになります。もし不具合等で送信ができない場合は、次ページの引継ぎ用資料をご使用ください。

③来年度の代議員さんに下記のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。(書式は問いません)

* なお、メールアドレスが送付できないご事情があれば、Fax でも対応いたしますので、その際は Fax 番号を送付していただけると幸いです。

[送付先メールアドレス] ko.uemura@gujo.ed.jp

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立白鳥中学校 上村 光一 (うえむら こういち)

TEL 0575-82-3155 fax 0575-83-0048

お手数ですが、よろしくお願いいたします。

FAX 送信票

代議員引継ぎ資料

郡上市立 白鳥中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-83-0048

令和5年度 中学校国語科研究部会代議員

報告用紙

令和5年度 代議員

_____中学校_____

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

_____中学校_____

「ぎふこくご」No.73 もくじ

新しい令和の時代の中国研県大会の在り方を考える

……会長 大垣市立東中学校 石橋 佳之 3

中学校国語科における学習指導と学習評価の工夫改善

……岐阜県教育委員会 学校支援課 加藤 尚子 4

中国研を「岐阜県規模の教科部会」に……主務者 岐阜市立本荘中学校 伊藤 雄樹 6

生きてはたらく言語能力を育成するために私たち中国研が「今」できること

……研究総括 垂井町立不破中学校 小宅 陽久 8

全体研究構想図 10

話すこと聞くこと部会 令和4年度の研究の方向…大垣市立上石津中学校 片山博寿 11

書くこと部会 令和4年度の研究の方向……………可児市立東可児中学校 梅田佳宏 12

読むこと部会 令和4年度の研究の方向……………岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大 13

言語文化部会 令和4年度の研究の方向……………各務原市立蘇原中学校 河合のぞみ 14

単元構想表「話題や展開を捉えて話し合おう」……大垣市立上石津中学校 片山博寿 15

単元構想表「多角的に分析して書こう」……………瑞浪市立瑞浪南中学校 山崎 雅 16

単元構想表「クマゼミ増加の原因を探る」……………大垣市立星和中学校 渡辺 孝充 17

単元構想表「夏草—『おくのほそ道』から」…岐阜県中学校国語科研究言語文化部会 18

令和3年度実践記録ぎふこくご賞受賞者の論文及び指導案

……論文部門 関市立津保川中学校 辻 宏紀 19

……論文部門 岐阜市立長良中学校 肥田 雅史 25

……ダイジェスト部門 各務原市立鵜沼中学校 村瀬 友美 32

実践記録ぎふこくご賞 受賞者一覧 37

令和4年度県中国研役員・研究部員組織一覧 39

中学校国語科研究部会会則 40